



学校や家のまわりには、 自然の落としものがいっぱい！

カタツムリのからや白くかがやく石、セミヤヘビのぬけがら、どんぐりや草の種子などなど……。学校や家のまわりには、わくわくする自然の落としものがあります。つつい拾って、学校や家に持ちこんでしまう人もいるのではないのでしょうか？ そんな、気になる落としものを採集して、採集した場所と日付を書いたラベルを付けて並べてみましょう。学校や家の一角が、みんなで楽しむ「自然の落としもの博物館」に変身します。

自然の落としものを探そう！ こんな自然の落としものが、身近な場所で採集できます。



step up 自然の落としものは、クリーニングとかんそうが大切

自然の落としものを採集した状態のままにしていると、まわりの人がいやがることもあります。よごれているものは、どろなどを落としてクリーニングし、また、しめったままではカビが生えることもあるので、しっかりかんそうさせます。



展示でかつやくする容器 採集した自然の落としものを、そのまま並べただけではゴミにしか見えません。展示は、「わかりやすく」「美しく」作るのがポイントです。100円ショップや身近な材料を使って、標本ケースを作ってみましょう。



展示してみよう！

採集した場所や日付、採集者名などを書きこんだらベルをはり、標本にした展示物を、机の上に並べていきます。四角いケースを使えば、ブロックを組み合わせるように、整然と並べることができます。かべには、フックや両面テープなどを使って展示しましょう。



ラベルが重要

種名などは、わかるはんで書く。標本が大きい場合は、データを直接マジックで書きこんでも大丈夫。



自然の落としもの博物館は、どんどんつけ足していくことができる。

外で遊んだあと、家までつつい小石や木の实などを持ち帰った経験はないですか？ 採った日や場所を書き、ケースに入れたら立派な標本のできあがり！ 玄関やトイレ、自分の部屋に展示したら自宅はミニ博物館です。(矢野)

◆自然を調べるプロのスゴ技にチャレンジ！ 特別配信版(期間限定) / 少年写真新聞社『100円グッズと身近な道具でできる！ 博物館のプロのスゴ技で自然を調べよう ④展示と発表』小川誠・奥山清市・矢野真志 / 共著 (西日本自然誌系博物館ネットワーク) p.6-7より ※このシートは、非商業的な利用に限り使用を許諾します。 ©小川誠・奥山清市・矢野真志